

「ダーナ」とはサンスクリット語で、[布施]の意。

ダーナ●第14号

発行日●平成21年7月15日

編集／発行●浄土宗平和協会(JPA)

発行人●荻野順雄

YEAR BOOK

Jodo Shu Peace Association

浄土宗平和協会(JPA)は本年度、新体制となり3年目を迎えた。平和と共生の社会を目指し、活動の四つの柱、社会参加する仏教を実現する「浄土宗平和賞」、私費留学生の希望の図書を贈呈する「ブックギフト」、世界で活躍するNGOを支援する「NGO支援事業」、平和の現場を訪れ学ぶ「スタディーツアー」を中心に活動をさらに充実させる。

また、本年度は特に、公益性・公開性を高めるため協会の基盤整備を行い、浄土宗の他の公益団体と連携を深める。本年度も浄平協の活動にご期待ください。



さらなる飛躍を願い

浄土宗平和協会理事長
荻野順雄



法然上人の絶対平和
のお念仏の精神を体し、

1990年に設立された浄平協は、「生みの親」としてご尽力いただいた初代理事長・長島善雄師をはじめ、多くの関係宗門人の平和希求の願いに応え、本会設立当初の原点を忘れることなく、さらにパワーアップして参ります。

昨今の社会では、かつては信じられないように事件が多発し、世界各地で武力紛争がやまない日はありません。このような状況だからこそ、日本人のDNAまで深く潜在しているはずの仏教精神を呼び覚ましていかなくてはなりません。「平和」は世界の人々が心を開きあい、共に考え、身近なところから一つ一つ、着実に取り組まなけれ

三年目の新・浄平協 念仏の精神を体現し 公益性の高い活動を

ば実現できない共通の課題です。先進国と発展途上国間の不平等、民族間問題、人権問題、環境問題等々多様で困難な問題が関連しています。

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理想のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク活動が大切です。

すべての生きものが、共に生きるといふ仏教の縁起の教えに従い、生きとし生けるものの幸せのために、一人ひとりの仏教徒として今為すべきことを真剣に考えたいものです。

課題山積の浄平協ではありますが、視界良好です。倍増した会員の皆様の期待に応えて新事業も順調です。名実ともにしっかりとした団体になるべく、諸規則の基盤も固めます。宗内の他公益団体との連携事業も検討中です。

教区単位の支部設立を呼びかけ、会員、賛助会員増加のための活動を推進する事務局もいっそう充実しました。本年度がさらなる飛躍の年となりますよう、皆様のご支援、ご指導をお願い申し上げます。

浄土門主坪井俊映様下から浄土宗平和賞を授与される大河内大博師



第1回浄土宗平和賞

受賞者はビハーラ僧・大河内大博師

「社会参加する仏教」を志向し公益活動を行う浄土宗寺院、教師を顕彰し、支援する第1回浄土宗平和賞（浄平協主催）が、大阪教区願生寺副住職の大河内大博上人に決定し、6月9日宗務庁（京都）講堂で行われた浄平協総会（平和の集い）で、浄平協総裁・浄土門主坪井俊映猊下から大河内上人へ賞状と副賞が手渡された。

平和賞は、浄平協が今年初めて行う、平和活動、環境保護活動、福祉活動など公益活動を行う寺院・教師を顕彰するもの。副賞は30万円。今年2月に行われた平和賞選考委員会（委員長熊岡路矢元JVC理事長、東大特任教授）で会員などから推薦された候補の中から、決定された。委員は他に神仁全国青少年教化協議会主幹、枝木美香アユス仏教国際ネットワーク事務局、栗田順一浄土宗文化局課長ほか、浄平協役員。

大河内さんは、コミュニティ・ビハーラを目指し超宗派の僧侶が参加したNPO法人ビハーラ21の理事・事務局役として活躍、これまでに数百人のビ

ハーラ僧の育成、緩和ケア病棟に派遣事業などを行っている。

平和賞候補の内、委員会で得票があった以下の団体は、来年の第2回平和賞候補として残る。

- ①子どもたちの居場所 寺s軍団 西居院（廣中崇順）
- ②NPO法人ユニ（遠藤暁及）
- ③一心寺（高口恭行）
- ④つきかげ堂（福井純史）
- ⑤平和を願う僧侶の会（若麻績敬史）
- ⑥ぞうさんのおうち（森下慎一）
- ⑦おさかなの家（山田智之）
- ⑧NPOグローバル・ヒューマン・サポーターズ（本多義敬）
- ⑨パネルシアター（武智公英）
- ⑩圓福寺（池田常臣）



ビハーラに込める願い

大河内大博師受賞スピーチ抄録

社会に生きる僧侶のあり方

私に、「仏教者が社会に果たす役割」を考えるきっかけを与えてくれたのは、まだ、一人前にもなっていない大学生時代の、友人の何気ない「キリスト教は“愛”で、仏教は“死”」という言葉でした。

仏教にとって“死”を語り、“死”を思惟することは、教えの根幹でありま

す。僧侶が“死”の専門家であることは、仏教の真髄でもあります。しかし、社会が視る「仏教＝“死”」は、そのような目線でしょうか。現状は、誰かが死んでから世話になる仏教・僧侶であり、生きている間に必要とされない仏教・僧侶なのではないでしょうか。そのことは、病院に行けば明らかで、当時、僧侶が病院を訪問すると「縁起が悪い」と追い帰されてしまうのが、世間の風景でした。

仏教に向けられた“死”のイメージとは、他でもない僧侶への期待の欠如の現れであることを、友人の言葉で痛感いたしました。

浅はかな知識と生意気な使命感ながらも、「これから自分は、どのような僧侶になるべきか」を自問いたしました。そのような時に、一つの道を示してくれたのが「ビハーラ」でした。ビハーラは、1985年に、仏教の教えを基盤とした終末期患者へのケアの呼称と理念を指した言葉として提唱され、それまでの仏教教団・僧侶の在り方を、僧侶自らが自己反省した中から誕生した、新しい仏教〈ネオブuddiズム〉の在り方を模索する最先端にあるもの

でした。

私は、これこそが取り組みたいものだとの思いから、当時、唯一の仏教系緩和ケア施設だった、長岡西病院ビハーラ病棟を尋ね、約1年間、患者さまと先輩ビハーラ僧の方たちに育てていただきました。しかし、人生の厳しさも知らない私が、余命の限りを知らせた人々が真摯に、最期まで生き抜く現場で、何か役立つはずありませんでした。ただただ、出会う患者さまに向き合いながら、自身の愚かさや無力さを痛感する日々でありました。今、お浄土へ旅立たれた出会いし患者さまの相好・お声を想い起こしますと、「おまえは何のために、誰のためにここにいるんだ」と問われていたような気が致します。まさにビハーラの現場に居ることは、自分を丸裸にされることであり、修行の場と言ってもよい、等身大の自分を問われる厳しい時間でした。

そこで過ごした貴重な日々が、私に一つの社会的責務を与えてくれました。それは、ビハーラに出会い、実践の機会をいただいた者として、より多くの人にビハーラを知っていただき、活動を仏教界に広げていく仕事を微力であってもしなければいけない、ということでした。



ビハーラ21が運営するシェアハウス中井で行った「映画上映会」の一幕

3つの壁を越えて

「ビハーラ21」はそのような責務を具現化するために、大阪の地で、足利佐理理事長をはじめとした経験豊富な上人さまと、仏教・僧侶に期待する市民の力添えによって誕生しました。「ビハーラ21」は、医療・福祉のケア現場から、仏教の智慧をもとに、人々がその人生の意味を再確認し、もう一度、いただきたいのちの尊さに触れることで、より豊かな人生・社会を築いていくためにはたらきを目標に取り組んでいます。

まず、私たちは、3つの壁を乗り越えて活動しています。

1つは、宗派を超える活動。ビハーラは、布教・伝道とは一線を画した活動です。様々な苦しみ・痛み・悲しみに満ちた社会に、仏教にふれた者として、無我夢中でその社会に飛び込んでいく活動であります。

2つ目は、職種を超える活動。寺院内の活動に留まらない、医療・福祉施設での実践を目指したビハーラは、僧侶だけでは学び、考え、行動していけない活動です。医療者や福祉従事者、市民とともに、仏教の智慧を活かす方法を見つけていく活動であります。

3つ目は、個人を超える活動。ビハーラは、ただ単に個人が成長し、満足するための手段ではありません。ビ

ハーラという言葉の原意には、「憩いの場」という共同体の思想が流れています。すべての世代で“孤独化”が大きな陰を落とし始めている社会にあって、個人の私利私欲を超え、共生（ともいき）社会を創造していく活動であります。以上の3つ

の壁を越えて、人材の育成、実践の現場開拓、ケアサポートの充実、ビハーラネットワークの構築という4つの活動を柱に実践しています。



大河内大博師

僧侶がもっと元気に

今、私たちビハーラ21は、一般市民からの賛助を多くいただき支えられています。ビハーラはその提唱から24年が過ぎ、仏教者発の運動から、市民の声に応じて活動する時代へとその歩みを進めたように見えます。

その声に応じていくことが、今問われている“社会のなかにある仏教の姿”と、“人々の苦に寄り添う僧侶の姿勢”を教示してくれるものと信じ、仏教が、僧侶がもっと元気になって欲しいとの願いをビハーラに込めたいと思います。

浄土宗は、かつて、「社会事業宗」と評価された「社会参加仏教」の先端を走っていた宗派でありました。現在は、宗祖・法然上人の800年大遠忌を前に、「ともいき社会」の実践として取り組んでいます。私もまた、ビハーラの実践を通して、己の愚かさや向き合いながら社会と関わっていくことで、「ともいき社会」の実現に貢献できるよう取り組み、この度いただきました報恩に応じていきたいと思っています。

大河内大博師略歴

1979年生まれ。法政大学卒、佛教学大学院修士課程修了、桃山学院大学大学院博士前期課程在学中。01～02年、当時日本で唯一の仏教系緩和ケア病棟・長岡西病院ビハーラ病棟でビハーラ僧として末期がん患者のケアに関わる。その後、近畿圏の緩和ケア施設でボランティア継続、現在は市立堺病院などで患者、家族、医療スタッフのケアを実践。NPO法人ビハーラ21理事、NPO法人くるとり山荘理事、死別体験者の分かち合いの会「ゆりの会」スタッフ。

浄土宗平和協会 年次レポート



浄土宗平和協会(JPA)は、浄土宗劈頭宣言にある「愚者の自覚」に立ち、「世界と共生する」平和の問題に取り組み、NGO支援、ブックギフト活動、浄土宗平和賞、平和アピールなどの活動を行っています。

会報ダーナYear Bookでは、20年度の事業をレポートするとともに、21年度の展望、予算・決算などを報告いたします

ブック・ギフト in Tokyoを初めて実施

苦勞しながら勉学に励む外国からの私費留学生に、希望する図書(1万円以内、最大2冊まで)をプレゼントするブックギフトin Tokyoを初めて行いました。75人(内訳男性22人、女性53人)から応募があり、書籍授与式を平成20年11月30日午後3時から大本山増上寺大殿で行いました。図書贈呈者大学別一覧は次の通り。

東京大学14人、武蔵野大学13人、立教大学12人、明治大学、東京語文学院(語学学校)各6人、お茶の水大学5人、慶應大学、国士舘大学 各3人、首都大学東京、杏林大学 各2人、一橋大学、武蔵大学、順天堂大学、

東京農工大学、駒澤女子大学、東京学芸大学、東京電気通信大学、駒澤大学、早稲田大学 各1人

第1回浄土宗平和賞を実施

社会参加する仏教をめざし、公益活動を行う浄土宗寺院、教師を顕彰、支援する浄土宗平和賞を創設し、第一回受賞者に、大阪教区大願寺副住職大河内大博上人を選出しました(詳しくは2ページ参照)。

平和賞要綱・推薦書を会員、教区長、教化センター委員長宛に送付し、推薦をお願いしました。

平成20年 平和念仏募金によるNGO支援実績

団体	プロジェクト名	具体的用途	援助額	通算支援
① 日本国際ボランティアセンター(JVC)	紛争地における子どもの栄養支援(パレスチナ・ガザ地区)	5カ所の幼稚園のうち1カ所で提供する牛乳とビスケット1年分等	¥500,000	9回目
② パレスチナ子どものキャンペーン	パレスチナ難民キャンプの子どもたちの教育支援	補習クラスの教材費、指導員の人件費	¥500,000	10回目
③ 反差別国際運動(IMADR)	インド・ダリット子どもデイケアセンター・プロジェクト	デイケアセンター6軒分の運営費用、デイケアセンター1軒分の新規建設費用	¥500,000	10回目
④ シャンティ国際ボランティア会(SVA)	ミャンマー(ビルマ)難民キャンプにおける図書館活動	カレン語の絵本印刷費(1タイトル)、図書館運営費、スタッフ人件費の一部	¥500,000	3回目
⑤ ジュマ・ネット	チッタゴン丘陵地帯カグラチャリ県紛争被害を受けた青少年への教育支援とレイプ被害者支援	1. 教育支援(奨学金配布費用) 2. 現地管理費 3. レイプ被害者支援 4. レイプ被害者生活復興支援	¥500,000	2回目
計			¥2,500,000	

ミャンマー・サイクロン災害・中国四川省大地震災害緊急救援募金実施

災害発生後、すみやかに平成20年5月、全会員・全寺院宛のダイレクトメールを発送しました。みなさまのご協力を得て、約600か寺、1,230万円もの浄財が寄せられました。ロックフェラー財団ブリッジファンド、世界仏教徒連盟国際救援委員会、ビルマ救援センターなどを通じ、現地に速やかに届けられ、復興に役立ちました。

浄土宗平和協会ホームページ開設 <http://jpa.jodo.or.jp>

ホームページを立ち上げました。浄土宗のホームページ表紙より直接アクセスできます。

ホームページ開設により、ブックギフト事業で、図書を希望する留学生が、直接、申込書、募集要項をダウンロードできます。また、浄平協が出した平和に関する諸声明を、広く一般の方に訴えることができるようになりました。また、専用アドレスも取得しました。

◇jpa-info@jodo.or.jp

平和念仏募金によるNGO支援

みなさまから寄せられた平和念仏募金の浄財で、20年度も以下の5団体に、合計250万円の支援を行いました。支援団体は日本国際ボランティアセンター(JVC)、パレスチナ子どものキャンペーン、反差別国際運動(IMADR)、シャンティ国際ボランティア会(SVA)、ジュマ・ネット。

賛助会員募集パンフレット作成

賛助会員増加を目指し、専用パンフレットを作成しました。

「パレスチナ1948 NAKBA」上映会の開催に協賛

平成21年1月10日、本山増上寺・慈雲閣で行われた上映会に協力しました。

平成20年度 浄土宗平和協会収支決算書

(自:平成20年4月1日 至:平成21年3月31日)

■収入の部

款	項	予算額	決算額
(1)	会費収入	2,620,000	2,785,000
	①個人会費(本年度分)	500,000	590,000
	②団体会費(本年度分)	1,500,000	2,000,000
	③賛助会費	600,000	105,000
	④過年度会費	20,000	90,000
(2)	助成金収入	2,458,300	2,032,137
	①浄土宗助成金	2,458,300	2,032,137
(3)	寄付金収入	3,000,000	17,754,027
	①平和念仏募金	2,500,000	5,420,241
	②緊急募金	500,000	12,333,786
(4)	事業収入	0	0
	①行事参加費	0	0
(5)	繰入金収入	1,800,000	0
	①繰入金収入	1,800,000	0
(6)	雑収入	30,000	33,662
	①雑収入	30,000	33,662
	収入合計	9,908,300	22,604,826

■支出の部

款	項	予算額	決算額
(1)	研修費	100,000	0
	①研修費	100,000	0
(2)	事業費	6,632,500	15,023,338
	①機関紙発行費	660,000	700,000
	②会報(イヤーブック)発行費	550,000	550,000
	③広報資料作成費	262,500	150,000
	④NGO団体支援費	3,030,000	2,530,000
	⑤浄土宗団体援助協力費	100,000	0
	⑥緊急援助拠出金	500,000	9,705,845
	⑦スタディツアー諸経費	0	0
	⑧総会費	100,000	122,980
	⑨平和賞	400,000	398,005
	⑩ブックギフト	1,000,000	786,508
	⑪その他	30,000	80,000
(3)	会議費	1,595,800	1,364,277
	①会議費	1,565,800	1,338,960
	②会議諸費	30,000	25,317
	③会議派遣費	0	0
	④監査費	0	0
(4)	庶費	1,550,000	2,472,563
	①事務費	550,000	836,333
	②「ダーナ」発送事務費	500,000	1,043,370
	③ダイレクトメール送料	500,000	592,860
(5)	予備費	30,000	35,000
	①予備費	30,000	35,000
	支出合計	9,908,300	18,895,178

浄土宗平和協会 年次レポート



浄土宗平和協会は、本年平成21年は、いよいよ新体制協会設立から3年目を迎え、飛躍の年とします。昨年度末現在で、正会員（本年度より、個人会員、団体会員を統合し正会員といたしました）277人、賛助会員22人（団体）となり、会員数500を目指します。4月設立済みの滋賀教区はじめ、教区単位の支部設立を呼びかけます。新企画ブックギフト in Tokyo、浄土宗平和賞が好評を呼び、本年も第2回を実施します。また、名実ともに確固とした団体になるためにも、会則、会計などの検討も行います。本年度もよろしくご支援、ご指導をお願いいたします。

第2回ブックギフト in Tokyo、 第2回浄土宗平和賞を実施します



浄土宗平和協会の主事業として昨年度から実施し、好評を得たブックギフト in Tokyo、浄土宗平和賞を今年も引き続き、実施します。ブックギフトは、予算を増額し、広報体制を強化、担当の事務局員も増えます。さらにブックギフト活動を他地区（たとえば、ブックギフト in Kansaiなど）に広げる準備を行います。また平和賞は、専用の盾を制作し、賞金の額の増加を検討しています。会員のみならずには該当寺院のご推薦をよろしくお願い申し上げます。

浄土協滋賀支部が設立され、 他の教区にも支部設立を働きかけます

滋賀支部設立総会は、4月11日に滋賀県草津市内のホテルで開催され、里見法雄宗務総長主席のもと、浄平協からも小林正道、小泉顕雄両副理事長が出席して行われました。支部規約、事業・予算案が承認され、支部長に嬉野俊雄教区長を選出、50人規模で出発しました。今後、浄平協では、他の教区や、協会の活動に興味を持つ有志に呼びかけ、支部設立を目指します。また、会員増、賛助会員増加のための活動も行います。

会員加入を呼びかけます

協会設立3年目を迎え、これまで277人の正会員を迎えることができました。これを500人を目標に、会員加入を呼びかけるとともに、賛助会員（檀信徒、団体）増加を目指します。

第5回スタディーツアーを実施します

浄平協では隔年で行っている海外の宗教現場などを訪れるスタディーツアーを、来年2月下旬に8日間の日程で行います（詳しくは8ページ参照）。



ベニスの町並み

ことしも平和念仏募金、 NGO支援を行います

平成10年度から、浄土宗御寺院のご理解のもと行ってあります平和念仏募金の呼びかけを行います（詳しくは

ダーナの次号で）。今年も海外で平和、環境などの活動を行う5つのNGOに、支援を行います（予算規模300万円）。平和念仏募金のご協力もよろしくお願いいたします。

平成21年 平和念仏募金による支援NGO一覧

団体	プロジェクト名	援助額
① 日本国際ボランティアセンター (JVC)	紛争地における子どもの栄養支援 (パレスチナ・ガザ地区)	¥700,000
② パレスチナ子どものキャンペーン	パレスチナ難民キャンプの子どものための教育支援	¥500,000
③ 反差別国際運動 (IMADR)	インド・ダリット子どもデイケアセンター・プロジェクト	¥600,000
④ シャンティ国際ボランティア会 (SVA)	ミャンマー (ビルマ) 難民キャンプにおける図書館活動	¥700,000
⑤ ジュマ・ネット	チッタゴン丘陵地帯カグラチャリ県紛争被害を受けた青少年への教育支援	¥500,000
計		¥3,000,000

会則、会計を検討する専門委員会を設置します

浄土宗平和協会は、協会になって3年目を迎え、会員数、募金額も増加の一途をたどり、会運営の公開制を保つため、会則、会計の基準などを総合的に検討する専門委員会の設置を検討しております。名実ともに、確固とした基礎を築くために、検討を行う予定です。

浄土宗児童教化連盟、浄土宗保育協会と連携します

宗内の公益団体として、同じ立場にある浄土宗児童教化連盟と浄土宗保育協会と協力して事業を行えるよう検討を開始します（詳しくは、10ページ）

平成21年度 浄土宗平和協会収支予算

(自:平成21年4月1日 至:平成22年3月31日)

■収入の部

款	項	20年予算額	21年予算額
(1)	会費	2,620,000	3,120,000
	①正会員会費 (本年度分)	2,000,000	2,500,000
	②賛助会員会費 (本年度分)	600,000	600,000
	③過年度会費	20,000	20,000
(2)	助成金	2,458,300	2,459,000
	①浄土宗助成金	2,458,300	2,459,000
(3)	募金	3,000,000	3,000,000
	①平和念仏募金	2,500,000	2,500,000
	②緊急募金	500,000	500,000
(4)	雑収入	30,000	30,000
	①雑収入	30,000	30,000
(5)	繰入金	1,800,000	3,709,648
	①前年度繰越金	0	3,709,648
	②繰入金	1,800,000	0
収入合計		9,908,300	12,318,648

■支出の部

款	項	20年予算額	21年予算額
(1)	研修費	100,000	100,000
	①研修費	100,000	100,000
(2)	事業費	6,632,500	7,435,000
	①会報発行費	660,000	660,000
	②会報 (年次報告書) 発行費	550,000	550,000
	③広報資料作成費	262,500	210,000
	④NGO団体支援金	3,030,000	3,030,000
	⑤団体協力費	100,000	100,000
	⑥緊急援助拠出金	500,000	100,000
	⑦スタディーツアー関連費	0	200,000
	⑧総会費	100,000	200,000
	⑨平和賞関連費	400,000	845,000
	⑩ブック・ギフト関連費	1,000,000	1,500,000
	⑪宗内団体協力費	30,000	40,000
(3)	会議費	1,595,800	1,054,000
	①会議費	1,565,800	1,024,000
	②会議賄費	30,000	30,000
(4)	庶費	1,550,000	2,600,000
	①事務費	550,000	1,000,000
	②派遣費	0	500,000
	③『ダーナ』発送事務費	500,000	600,000
	④ダイレクトメール送料	500,000	500,000
(5)	募金繰金	0	100,000
	①繰入金支出	0	100,000
(6)	予備費	30,000	1,029,648
	①予備費	30,000	1,029,648
支出合計		9,908,300	12,318,648

平和基金	
平和基金	17,519,840

予告!

浄土宗平和協会
第5回スタディツアー

修道院の生活を体験し、ローマ法王と謁見、
キリスト教信仰にふれる。

浄土宗平和協会は、平成21年2月23日から8日間の予定で、恒例のスタディツアーを行います。第5回の今回は、カトリックの「諸宗教の対話プロジェクト」の協力で、キリスト教ローマカトリックの中心バチカンを訪れ、ローマ法王に謁見するほか、カトリックの修道院を訪問、厳格に修行をしている修道士の信仰を学びます。ほかに、ローマ、フィレンツェ、ベネチア、ミラノなどを訪れ、観光を楽しむ予定です。



バチカン全景

以下の旅程は、変更の可能性があります。料金は25～30万円を予定。宗報10月号以降で正式に告知し、12月初旬に発行予定のダーナ15号に申込書を同封いたします。会員は旅行代金の5パーセント引きですので、ふるってご参加ください。会員以外の参加も歓迎します。

◎旅行期間:2010年2月23日(火)～3月2日(火)【8日間】

◎旅行代金:25～30万円前後

日次	月日 曜日	発着都市	現地 時間	交通機関	摘要
①	2010年 2月23日 (火)	成田空港 発 ローマ 着	午前 夜	国際線	成田空港【航空会社未定】ローマ 【ローマ泊】
②	2月24日 (水)	ローマ	終日		終日、ローマ法王謁見とローマ見学 夕刻、ローマ郊外【約1時間】にある修道院にて研修(宿泊) 【ローマ郊外の修道院泊】
③	2月25日 (木)	ローマ	終日		午前、修道院にて研修 午後、ローマ見学 【ローマ泊】
④	2月26日 (金)	ローマ 発 フィレンツェ 着	8:30 12:30	専用車	ローマ【約280km/約4時間】フィレンツェ 着後、フィレンツェ見学 【フィレンツェ泊】
⑤	2月27日 (土)	フィレンツェ 発 ベネチア 着	8:30 12:00	専用車	フィレンツェ【約260km/約3.5時間】ベネチア 着後、ベネチア見学 【ベネチア泊】
⑥	2月28日 (日)	ベネチア 発 ミラノ 着	8:30 12:00	専用車	ベネチア【約280km/約3.5時間】ミラノ 着後、ミラノ見学 【ミラノ泊】
⑦	3月1日 (月)	ミラノ 発	午前 午後	国際線	ミラノ【航空会社未定】 【機中泊】
⑧	3月2日 (火)	成田空港 着	午前	航空会社 未定	

※ホテルは4ツ星クラスを予定しております。

願いを込めた祈りとともに

「平和の集い」を開催!!

浄土宗平和協会の総会にあわせ、今年初めて「平和の集い」を6月9日、宗務庁(京都)講堂で開催しました。集いには、浄平協総裁坪井俊映浄土門主、里見法雄宗務総長(浄土宗平和協会会長)らの臨席の下、会員など約70人が参加しました。

まずは参加者全員で「平和誓願法要を」行い、昨年、浄平協が中心になって作成した「平和アピール」を参加者全員が読み上げました。

今回、記念講演として、昨年夏、中国チベット動乱の政治的暴力に抗議して、北京オリンピック聖火出発地を返上した大本山善光寺の僧侶らで作る「平和を願う僧侶の会」代表の若麻績敬史師(長野教区德行坊住職)が『祈りの心の尊さ』と題してお話いただきました。

また、平和賞授賞式では、受賞理由説明を選考委員長の熊岡路矢東京大学特任教授が行ったほか、NGO支援を受領するシャンティ国際ボランティア会の茅野俊幸専務理事が、活動報告を行い、引き続き浄平協総会を実施いたしました。

「平和の集い」は、浄平協の活動を広く宗門の中でアピールすることを目的に企画、総会とともに、平成20年度に創設した事業「浄土宗平和賞」の授賞式を併催することで、内容の充実した催しとなりました。

冒頭の「平和誓願法要」では、伊藤喬淳人権同和室長を導師に、里見宗務総長、荻野理事長をはじめ、浄平協理事が参列して厳修、法要の最後には「浄土宗平和アピール」を全員で読み上げました。この「浄土宗平和アピール」は、昨年11月に広島で行われた「浄土宗世界平和念仏別時會」で発表、過去の戦時における浄土宗の言動等に対し、改めて反省と懺悔を行い、その歴史的検証を進めることを表明するものです。

続いては、若麻績敬史師による『祈りの心の尊さ』と題した記念講演が行われました。昨年の中国チベット動乱についてはまだ記憶に新しいところですが、特に善光寺の聖火出発地問題について、宗教界ではその対応について、様々な議論を呼びました。

「聖火の出発地を辞退するまでには、様々な苦しみがありました」……。冒頭、若麻績師はチベット動乱前後における、善光寺内での様々

な葛藤を語られました。ご承知の通り、善光寺は無宗派で、浄土宗と天台宗が管理を行っており、運営方針については合議制で行われるといえます。合議制であるが故に、チベットの問題の受け止め方も様々で、相当の議論の中で、ようやく辞退が決まったといえます。その背景には、善光寺が「仏ありきの寺」であり、信仰ある人を迎え続けてきた歴史があるからこそ、その歩むべき道だったとのこと。

その歩むべき道は、聖火リレー出発と同時に開催されたチベット動乱犠牲者の追悼法要へとつながっていきました。

「目の前に苦しみのまっただ中に

いる人を知りました。そしてそれに対して何らかのことをしなければならぬということが芽生え、善光寺の仏が何を願っているのかを考えての行動でした……」

この追悼法要を契機に、宗教界のみならず、世界へと祈りと

願いが広がっていきました。その心は、追悼法要当日にメッセージとして発信されました。そのメッセージは、「お互いを慈しみ合う世界の実現を」と訴えています。平和を願う善光寺の行動を通じて、何をそれぞれの立場で行うべきなのかを考えさせられる講演となりました。

会はその後、平和賞の授賞式(受賞スピーチは2～3ページ)へと移り、坪井俊映浄土門主より、第1回受賞者の大河内大博上人へ賞状と副賞が贈呈されました。

この「平和の集い」、これからもより充実した内容を企画、平和の心が多くの宗門教師へと、また社会へと広がっていくことを願って、続けていきたいと思えます。



記念講演を行なう若麻績敬史師



浄土宗児教連、浄土宗保育協会と連携へ

浄平協は、公益活動を行う浄土宗児童教化連盟、浄土宗保育協会の2団体と連携を強化する。共同事業などを立ち上げるために、10月に3団体の理事長、事務局長の共同会議を開催し、どんな共同事業が可能かを探る。

事業例として、共同でイベントを立ち上げるとか、ポスターの作成、教化資料を開発するなど、

様々な連携を模索する。

WFBから宮林副総裁に 仏像が贈呈

浄平協は、ミャンマーサイクロン災害救援などの活動に対し、世界仏教徒連盟(WFB、P・ワナメッティ会長、本部タイ・バンコク)から仏像が贈呈された。宮林

副総裁(大本山光明寺法主)、戸松義晴浄平協企画委員が招待を受け、バンコクのエメラルド寺院で行われた仏像開眼法要に参列、仏像を拝受した。

副総裁は、タイでの修行体験があり、日本とタイの交流にも力を注いでおられる。このため、副総裁はタイの国立チュラコンロン大学から名誉博士号も授与された。

贈呈された仏像は、大本山光明寺に安置される。



宮林副総裁

会員資格が正会員、賛助 会員に変更(会則改正)

浄平協は、総会で会則改正を行い、「会員は浄土宗教師及び寺族を正会員とし、檀信徒、企業、及び宗教法人以外の法人を賛助会員とする」という新会則が承認された。

これまで、正会員に「個人会員」「団体会員」の区別があり、混乱を引き起こす場合があった。このため、正会員の一本化をはかり、会費もこれまでの団体会員と同額の10,000円とした。また賛助会員は、檀信徒会員と団体会員の二種類。これまで通り、会費も檀信徒会員2,000円、団体会員10,000円。正会員は、総会に出席して会の運営に参加できる。賛助会員は、支援に対し感謝の意味で会報ダーナに芳名を掲載する。

新理事に加用稔子さん (広島教区)

浄平協理事・小島定俊上人の遷化のため、新しい理事に広島教区西部組妙慶院寺庭で、会員の加

用稔子さんが総会で選出された。加用さんの任期は、他の役員と同じ任期4年で、平成22年度まで。

新事務局員に鍵小野さん

増大する浄平協事業に対応するため、事務局強化の一環として、事務局員に鍵小野和敬さん(東京教区八王子組養運寺副住職)を選任した。鍵小野さんは、昨年度まで、浄土宗総合研究所の嘱託研究員として活躍、海外の事情にも詳しい。ブックギフト活動の担当として、活躍いただく。

今年も、ブックギフト 募集開始

私費留学生100人に10,000円以内の希望図書を贈るブックギフトin Tokyoの要項、ポスターが、6月末、都内に本部を置く大学、短期大学に発送された。発送先は大学短大のほか、国際交流団体、留学生団体など合計178件。本年は、新たにA2サイズのポスターも作成し、広報を充実させた。また、会のホームページでも要項がダウンロードできる。

今年のブックギフトin Tokyoは、9月30日が締め切りで、申込書

とともに「あなたにとって平和とは？」と題した日本語の作文を提出してもらい、選考する。贈呈式は、11月29日に大本山増上寺大で行う。

浄平協は、この活動がブックギフトin Kansaiなどとして各地に展開できるように新設された滋賀支部などと十分に協議を行い実現化を目指す。



◎ JPA東京事務局より

報告●浄平協事務局・杉浦靖俊

東京事務局開設から2年が経過しました。昨年度は今までの平和念仏募金やスタディツアーといった国際救援活動に加え、留学生に書籍を贈呈する「ブックギフト」、そして社会参加する仏教を推進するための「浄土宗平和賞」が新事業として創設されました。なにぶん「ブックギフト」「浄土宗平和賞」共に新企画なだけに試行錯誤の連続でした。

私は浄土宗平和賞の担当として、会員並びに各教区から推薦を受けた候補者について、川副事務局長と共に候補者を分担し、取材や資料集めを行い、選考委員会においてその報告として二人がプレゼンするという、誠に責任重大な立場に置かれてしまいました。

生来内気で話し下手な私がそれぞれの取材の内容を、電話や直接お会いして感じた候補者の皆さんの熱い思いを、選考委員会の場でうまくお伝えすることが出来るだろうかと不安に思いました。プレゼンの優劣で授賞者が決まってしまうかと……。しかしながら、さすが選考委員の皆さんは幅広い知識と社会活動の事例に精通された専門家で、私の担当した拙いプレゼンにも各々の活動の本質やその今日的意義を見出し、エントリー全てを平等に評価して下さいました。熊岡委員長を始め選考委員の皆様の遠見に敬服するばかりです。

今回、浄土宗平和賞を担当して感じたことは、各分野で社会参加活動を積極的に推進されている寺院・教師は多数いらっしゃると思うのですが、宗や教区には公の情報として把握されることは稀のようです。平和賞創設を契機にこれからも情報収集に努め、関係団体とも提携しながら各分野でご活躍の活動事例をご紹介します。宗内各寺院・教師の社会参加を提唱していくことが重要だと思っています。

私も浄平協会員

大阪教区西蓮院
飯田順雅師



今回「私も浄平協会員」でご紹介するのは、大阪教区相阪組西蓮院の飯田順雅師。飯田師は、浄平協の前身、浄土宗平和推進協議会の設立にご尽力いただいたメンバーのお一人で、現在は浄土宗芸術家協会の理事長をおつとめでいらっしゃいます。当時の方々の思いが、今の活動に活かされているのか、お話を伺いました。

浄平協の前身は「浄土宗平和推進協議会」ですが、私はその設立に関わったメンバーのひとりです。平成2年の設立、準備会として2年間議論を尽くして、他の伝統教団にはない、「平和推進協議会」がスタートしたのです。

荻野師は当時事務局長として、活動を軌道に乗せるまで本当に奔走された。けれど、当時は会員組織でなかったことが課題でした。湾岸戦争難民救済募金が最初の大きな活動だったと記憶していますが、平和推進協議会の認知も低く、なかなか募金が集まらなかった。けれど、宗外へ向けての大きなアピールとなりましたね。

任期満了で理事を降りてから、その活動には関わりませんでした。平成18年に、現在の浄平協となって、会員制度を導入した時に、改めて会員として参加しました。

ロータリークラブには「serve」という精神があります。「We serve」、つまり一人で行うことは限られるがみんなであればという考

え方もありますが、私は「I serve」、まず自分のできることを始めようという考え方が大切だと思っています。

世界の平和を願わない人は誰もいないと思いますが、当初の平和推進協議会という名称の通り世界の平和をどのように実現していくのかというこの浄平協の活動に、会員として「I serve」することが平和実現への第一歩だと思います。滋賀教区には支部ができたようですが、このような動きが全国的に広がっていくことを願っています。

昨年からはじめた「ブックギフト」事業は素晴らしい着眼点だと思います。派手にアピールする事業は他にあるのかもしれないけれど、地味であっても本当に必要なことを継続して行っていくという姿勢が大切なのではないでしょうか。

芸術家協会と連携していくとしたら、何が出来るのでしょうか。一度荻野理事長と話し合えば、何かアイデアが出てくるのかもしれないですね。



浄土宗平和協会 (JPA)



会員募集

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。



チッタゴン丘陵地帯の寺子屋で年下の子どもたちに勉強を教えるソロモン (写真提供: ジュマネット)

平和、共生、みんなのために

[入会要項]

平成21年度より

浄土宗平和協会 (JPA) の活動にあなたも参加しませんか?

正会員

対象……………浄土宗教師・寺族

会費……………年間10,000円 (一口)

賛助会員

対象……………檀信徒、企業や宗教法人以外の団体

会費……………賛助会員 (檀信徒) 年間 2,000円 (一口)

団体会員 (企業など) 年間10,000円 (一口)

正会員は、入会時に「私たちは平和を祈念します」と記された会員プレートを贈呈します。

賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダーナに芳名を掲載します。

正会員、賛助会員は、スタディーツアーに割引料金で参加できます。

JPA 浄土宗平和協会4つ活動

1 平和念仏募金運動

NGO (国際協力のための市民団体) は、世界中のさまざまな人々の役に立っています。「平和念仏募金」はNGO支援を通じて、あなたの善意を世界の支援現場に直接届けています。

2 ブックギフト事業

ブックギフト事業は、留学生皆さんへの激励の心をこめて、お世話になった世界中の皆さんへのお返し的心をこめて、学業に必要な図書をプレゼントをさせていただく事業です。

3 浄土宗平和賞

「社会参加する仏教」を志向し、幅広い分野で公益活動を行っている浄土宗寺院・教師または浄土宗教師が代表を務める団体を顕彰し、支援します。

4 平和アピール

平成20年には、「浄土宗平和アピール」として、共生・平和の社会へ浄土宗を上げて、宣言しました。随時平和声明を発し、私たち念仏者の取り組みを積極的にアピールします。

ご希望の方には詳しい案内の掲載された協会のパンフレット (入会用振込用紙つき) を郵送させていただきますので、協会までご請求ください。

浄土宗平和協会 (JPA)

〒605-0062 京都市東山区林下町400-8 浄土宗人権同和室内
電話075-525-0484 Fax075-531-5105 メールjpa-info@jodo.or.jp
郵便振替口座【01020-5-16369 名義: 浄土宗平和協会】

